

令和元年度（平成30年度対象）

南丹市教育委員会
点検・評価報告書

令和元年9月

南丹市教育委員会

本報告書は、効果的な教育行政の推進と市民への説明責任を果たすため「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条第1項の規定に基づき、南丹市教育委員会が毎年度示す「指導の重点」の推進施策について事務の執行状況について点検・評価したものです。

南丹市教育委員会では、今後も教育環境の整備・充実を図るとともに子どもたちの「生きる力」を育む教育の推進に努力してまいります。

南丹市教育委員会

教育委員会委員名簿（令和元年9月現在）

職名	氏名
教育長	木村 義二
教育長職務代理者	武田 義史
委員	高屋 毅史
委員	城戸 貴子
委員	淵上 真奈美

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

1 教育委員会議の開催状況

教育委員会議については、原則として毎月1回「教育委員会定例会」を開催し、必要に応じて臨時会を開催いたしました。

■平成30年度開催教育委員会議

- (1) 教育委員会定例会・・・12回
- (2) 教育委員会臨時会・・・2回

2 教育委員会議での審議状況

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第21条に定める職務について、同法第25条及び「南丹市教育委員会教育長事務委任規則」の規定に基づき、平成30年度は合計44件について審議いたしました。

- (1) 教育に関する事務の管理及び執行の基本的な方針・・・17件
- (2) 教育委員会規則等の制定及び改廃・・・・・・・・・・・・・・11件
- (3) 職員（教職員を含む）の人事に関する事・・・・・・・・・・・・15件
- (4) その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1件

3 教育委員会活動

- ・全国市町村教育委員研修等 各種研修／平成30年11月21日 他

4 教育行政事務の取り組み状況に対する点検・評価

南丹市教育委員会事務の点検・評価の実施に関する要綱（平成25年南丹市教育委員会告示第9号）に基づき、下記の要点をもって点検・評価を実施しました。また、教育に関し専門的知見を有する点検・評価アドバイザーからは、事前送付した事務局作成による調書・資料により、8月26日（月）に点検・評価に係る意見聴取会議を開催し、様々な意見や助言をいただきました。意見・助言をいただいた点検・評価アドバイザーは次のとおりです。

（敬称略）

氏名	所属
山口 満	筑波大学 名誉教授 びわこ成蹊スポーツ大学 名誉教授
原 清治	佛教大学 副学長 教育学部教授
内山 淳子	佛教大学 特任准教授

(1) 点検・評価の要点並びに構成

① 評価対象

点検・評価の対象は、「平成30年度南丹市教育の指針」に基づき、学校教育及び社会教育に関する指導の指針に属する推進施策としています。

なお、この指針内の重点実践項目の内、平成30年度教育行政経営方針の重点事項に属する内の主な事務事業（23項目）に対して、点検・評価アドバイザーからの意見を聴取しております。

② 成果・課題等

事業の実施に伴い、成果が得られた内容や課題を示しています。

③ 「南丹市総合振興計画実施計画」及び「南丹市教育振興基本計画」上の位置づけ

計画で定められた施策の方針等に基づいて実施する事業に関する教育委員会としての点検・評価事務として位置づけています。

④ 内部評価と総合評価 ※評価判断の基準は下記に記載のとおり

(内部評価) 対象評価項目事務事業を所轄する担当課による評価です。

(総合評価) 内部評価に加え、点検・評価アドバイザーの参照意見を踏まえた教育委員会としての評価です。

※評価判断基準	
A	計画どおり又は計画以上の成果が得られた
B	課題は残しながらも概ね目標は達成できた
C	課題を残し目標も十分達成できなかった
D	検討段階で具体の成果はなかった

⑤ 点検・評価票記載内容等に係る改善点について

本年度実施したアドバイザーからの意見聴取を踏まえ、次年度からの運営に資することとします。

- ・ 指標に対する評価が大原則。具体的目標値が示されている指標と〇〇について頑張るのようなあいまいな指標が混載している。目標値(指標値)がしっかり表され、それを1年間で達成しているかを評価するのが重要なポイントであり、指標がぶれているところは見直しを行う。
- ・ 南丹市の教育の良さが多くあるにもかかわらず、発信がうまくできていない。
- ・ 学力の状況について、南丹市のスケールサイズであれば何かに取り組めば、数値として表れ、学校の先生の励みになり、次の子どもたちの努力目標になる。成果が出てくるように見せることが大切。

◆令和元年度 南丹市教育委員会主要事務事業一覧&「点検・評価」項目（平成30年度事務事業）◆

平成30年度「南丹市教育の指針」		担当課	項目番号	点検評価対象	点検・評価アドバイザーによる意見聴取	関連（軸）計画：「南丹市教育振興計画（南丹市教育振興プラン）」 *「第5章 重点目標と主要な施策の展開」から	
①重点実践項目	②予算事業又は「指針」小項目					③重点目標	④目標
1. 校種間連携体制のもとで進める特色ある学校・園づくり	教育研究事業	学校教育課	1	●	●	1. 「ふるさと南丹市」を愛し、未来に向かって伸びる子どもを育む学校教育の推進	(2) 生きる力としての学力を育みます
	教育創造事業	学校教育課	2	●	●	1. 「ふるさと南丹市」を愛し、未来に向かって伸びる子どもを育む学校教育の推進	(2) 生きる力としての学力を育みます
	コミュニティスクール推進体制構築事業	学校教育課	3	●	●	1. 「ふるさと南丹市」を愛し、未来に向かって伸びる子どもを育む学校教育の推進	(2) 生きる力としての学力を育みます
2. 一人一人の能力を引き出し個性を伸ばす教育の推進	特別支援教育推進事業	学校教育課	4	●	●	1. 「ふるさと南丹市」を愛し、未来に向かって伸びる子どもを育む学校教育の推進	(5) 一人一人の個性や能力に応じた教育を進めます
	学校以外の場における教育の機会確保調査研究事業	学校教育課	5	●	●	1. 「ふるさと南丹市」を愛し、未来に向かって伸びる子どもを育む学校教育の推進	(5) 一人一人の個性や能力に応じた教育を進めます
	情報教育機器整備事業	教育総務課	6	●	●	1. 「ふるさと南丹市」を愛し、未来に向かって伸びる子どもを育む学校教育の推進	(1) 学校教育環境の整備充実に努めます
3. 人権尊重の視点に立った豊かな人間性を育む教育の推進	いじめ防止対策推進費	学校教育課	7	●	●	1. 「ふるさと南丹市」を愛し、未来に向かって伸びる子どもを育む学校教育の推進	(3) 思いやりやいたわりの心など、豊かな人間性を育みます
	学校司書等設置事業	学校教育課	8	●	●	1. 「ふるさと南丹市」を愛し、未来に向かって伸びる子どもを育む学校教育の推進	(3) 思いやりやいたわりの心など、豊かな人間性を育みます
	心のバリアフリー推進事業	学校教育課	9	●	●	1. 「ふるさと南丹市」を愛し、未来に向かって伸びる子どもを育む学校教育の推進	(3) 思いやりやいたわりの心など、豊かな人間性を育みます
4. 健康で安全な生活実践能力と態度を育成する教育の推進							
5. 安全・安心で想定外のない学校防災力の向上	安全・安心な学校教育環境整備事業	教育総務課	10	●	●	1. 「ふるさと南丹市」を愛し、未来に向かって伸びる子どもを育む学校教育の推進	(1) 学校教育環境の整備充実に努めます
6. 豊かな学びと育ちを促す学校教育力量の向上							
7. 学校現場における働き方改革の推進	学校現場における業務改善加速事業	教育総務課	11	●	●	1. 「ふるさと南丹市」を愛し、未来に向かって伸びる子どもを育む学校教育の推進	(1) 学校教育環境の整備充実に努めます
8. 人権を大切にすまちづくりに向けた基本的な人権の尊重の視点に立った人権教育の充実	人権教育事業（人権教育講座）	社会教育課	12	●	●	2. 南丹市の教育資源を活かして生涯にわたる学びを支える教育環境づくり	(1) 人権尊重のまちづくりを進める人権教育の充実に努めます
9. 全ての教育の出発点である家庭の教育力の向上	家庭教育支援事業	社会教育課	13	●	●	2. 南丹市の教育資源を活かして生涯にわたる学びを支える教育環境づくり	(2) すべての教育の出発点としての家庭教育を支援します

平成30年度「南丹市教育の指針」		担当課	項目 番号	点検評 価対象	点検・評価 アドバイザーによる 意見聴取	関連（軸）計画：「南丹市教育振興計画（南丹市教育振興プラン）」 *「第5章 重点目標と主要な施策の展開」から	
① 重点実践項目	② 予算事業又は「指針」小項目					③ 重点目標	④ 目標
10. 地域総がかりによる子どもが育つ環境づくり	子どものための地域連携事業	社会教育課	14	●	●	2. 南丹市の教育資源を活かして生涯にわたる学びを支える教育環境づくり	（3）地域社会の力を活かして子どもが育つ環境づくりを進めます
11. 市民のつながりを促し豊かに学び合える学習環境づくり	社会教育施設改修事業 （南丹市公民館機能充実事業）	社会教育課	15	●	●	2. 南丹市の教育資源を活かして生涯にわたる学びを支える教育環境づくり	（4）市民の生涯にわたる学習環境の充実に努めます
	体育振興事業	社会教育課	16	●	●	2. 南丹市の教育資源を活かして生涯にわたる学びを支える教育環境づくり	（3）地域社会の力を活かして子どもが育つ環境づくりを進めます
	講座開設事業（公民館事業）	社会教育課	17	●	●	2. 南丹市の教育資源を活かして生涯にわたる学びを支える教育環境づくり	（4）市民の生涯にわたる学習環境の充実に努めます
	講座開設事業（博物館・郷土資料館）	社会教育課	18	●	●	2. 南丹市の教育資源を活かして生涯にわたる学びを支える教育環境づくり	（4）市民の生涯にわたる学習環境の充実に努めます
	講座開設事業（図書館）	社会教育課	19	●	●	2. 南丹市の教育資源を活かして生涯にわたる学びを支える教育環境づくり	（4）市民の生涯にわたる学習環境の充実に努めます
	展示会事業	社会教育課	20	●	●	3. 南丹市の教育資源を活かして生涯にわたる学びを支える教育環境づくり	（5）市民の生涯にわたる学習環境の充実に努めます
	文化財補助事業	社会教育課	21	●	●	2. 南丹市の教育資源を活かして生涯にわたる学びを支える教育環境づくり	（4）市民の生涯にわたる学習環境の充実に努めます
	重要文化財保存管理事業	社会教育課	22	●	●	2. 南丹市の教育資源を活かして生涯にわたる学びを支える教育環境づくり	（4）市民の生涯にわたる学習環境の充実に努めます
重伝建地区保存修理補助事業	社会教育課	23	●	●	2. 南丹市の教育資源を活かして生涯にわたる学びを支える教育環境づくり	（4）市民の生涯にわたる学習環境の充実に努めます	

令和元年度南丹市教育委員会の点検・評価表（平成30年度対象）

平成30年度重点実践項目		1. 校種間連携体制のもとで進める特色ある学校・園づくり	
点検・評価対象とする事務事業	教育研究事業	担当課	学校教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		大目標	1. 「ふるさと南丹市」を愛し、未来に向かって伸びる子どもを育む学校教育の推進
		目標	(2) 生きる力としての学力を育みます
事業目的	中学校ブロックを単位とした校種間連携体制の下で進める研究・研修活動を通して、子どもの発達理解・教育内容を深め、授業力・保育力の向上を図る。		
事業内容	1. 南丹市保幼小中連携教育研究事業 2. 幼稚園版教育創造事業「学びに向かわせる就学前教育研究事業」 3. 南丹市夏季教職員研修大会 4. 第8回きり本のことばコンクール 5. 京都丹波の教育推進事業の取組 ①学力向上システム開発校指定 ②土曜教育実践事業 ③オリンピック・パラリンピック教育推進事業 ④京都市「部活動サポート事業」部活動指導員の配置		達成指標 全国学力学習状況調査（小6・中3） 京都府学力診断テスト（小4・中1） ともに京都府の平均を安定的に上回る
			30年度予算額
			2,228,000円
成果	保・幼・小・中連携事業においては、中学校ブロックを単位として、全小学校・中学校・幼稚園及び保育所による校種を越えた交流・研究事業が展開できたことにより、就学前から義務教育9年間を見通した連携と研究が深まり、子どもの理解と学力向上に繋がってきている。 「きり本のことばコンクール」は、学社連携の取組として、作品募集の範囲を一般市民にも広げて取り組んだ。 京都丹波の教育推進事業（京都府の補助金を活用した事業）を活用した指定校による学力向上に向けた主体的な実践研究の成果を研究発表会を通して市内他校に波及した。		達成度 全国（小6）国語・理科は上回る 全国（中3）国語・理科は同程度 京都府（小4）国語のみ上回る
			30年度決算額
			1,986,396円
課題	新学習指導要領への対応等、学校業務が山積する中で一方では働き方改革、業務改善の推進をせねばならず、その両立をどう図っていくべきかが課題である。		
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無	有	意見聴取に際しての提示資料等	
意見内容	就学前の幼児教育が大切。意欲・自尊心を向上させることは重要で、この取り組みは評価できる。本事業の達成指標を学校教育の効果と抱き合わせて評価しているが、目指している取り組みは素晴らしい。（質問・改善点） 家庭環境等の違いにより異なる家庭学習の取組状況等を習慣化も含めて一定水準以上に引き上げていくことが大切ではないか。家庭学習の状況は。→学力診断結果を見ると課題がある。学校教育を授業改善し家庭学習に戻し、自宅に帰ってしたくなるような仕組みづくりをしている。		
内部評価	B	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり	
総合評価	A	A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）	

令和元年度南丹市教育委員会の点検・評価表（平成30年度対象）

平成30年度重点実践項目		1. 校種間連携体制のもとで進める特色ある学校・園づくり	
点検・評価対象とする事務事業	教育創造事業		担当課 学校教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉 における位置付け		大目標	1. 「ふるさと南丹市」を愛し、未来に向かって伸びる子どもを育む学校教育の推進
		目標	(2) 生きる力としての学力を育みます
事業目的	生きる力を育む教育施策の中軸となる学校提案型の企画事業により、学校独自の取組及び裁量を広げるとともに、学校の主体性を高める。		
事業内容	各小中学校が企画した「学校提案型課題解決P・特色化P・校長独自P」の3つのプランを校長等のプレゼンにより査定し、その結果に従って各校がプランに沿った独自の取組を実施した。 ◆小中学校から提案のあったプラン数 小学校 15プラン（13プラン採択） 中学校 11プラン（8プラン採択） 合計 26プラン（21プラン採択）		達成指標
			小中学校から提案のあったプランの確実な実施
			30年度予算額
		2,650,000円	
成果	今年度8年目となる本事業であるが、今年度も前年度の本事業に係る取組の成果と課題に基づき企画された校長の意図する特色ある学校経営実現のための独自プランが実践された。		達成度
			地域の実情・実態に合わせた特色ある学校づくりが効果的に行われた。 実施プラン数 21プラン
			30年度決算額
		1,905,730円	
課題	前年度に立案された企画書に基づき予算配分された内容で、当該年度を迎えるサイクルになっている。人事異動等もあり、企画書に基づく効果的な予算執行についての検証が難しい。		
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無	有	意見聴取に際しての提示資料等	
意見内容	前年度に企画を行うため、人事異動により企画立案者が携わる事が出来ない課題を抱えていると考えるが、学校の主体性を持って取り組んでもらう意図からも是非続けてほしい。 学校経営の研究についてはどんどん内容が変わっており、評価を数値化する事は難しいと考えるが、その検証を行うことは大事であると考えている。		
内部評価	B	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり	
総合評価	B	A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）	

令和元年度南丹市教育委員会の点検・評価表（平成30年度対象）

平成30年度重点実践項目		1. 校種間連携体制のもとで進める特色ある学校・園づくり	
点検・評価対象とする事務事業	コミュニティ・スクール推進体制構築事業	担当課	学校教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		大目標	1. 「ふるさと南丹市」を愛し、未来に向かって伸びる子どもを育む学校教育の推進
		目標	(2) 生きる力としての学力を育みます
事業目的	コミュニティ・スクールを核とした地域・家庭・学校の連携、協働体制を確立し持続可能な推進体制を構築する。		
事業内容	<p>外部講師を招いての研修会を3回実施したほか、先進地視察を実施した。各学校においては、ワークショップを開催して熟議を重ねた。</p> <p>第1回研修会 5月24日（木）参加者23人 第2回研修会 6月25日（月）参加者25人 第3回研修会 2月1日（金）参加者66人 先進地視察研修 2月22日（金）参加者23人 各小学校における熟議の開催</p>	達成指標	
		コミュニティ・スクールの理解者と実践者を増やす。研修会3回開催のうち参加者数延べ人数を100人とする。	
		30年度予算額	
成果	<p>平成30年度までに市内すべての小学校に学校運営協議会を設置できた。研修や先進地視察の他、各学校における熟議を重ねながら少しずつではあるが地域・家庭・学校の三者が目指す子ども像を共有することができつつある。</p>	達成度	
		研修会、先進地視察参加人数 137人	
		30年度決算額	
652,462円			
課題	今後も引き続き、コミュニティ・スクールを核とした地域・家庭・学校の連携、協働体制を確立し持続可能な推進体制を構築する。		
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無	有	意見聴取に際しての提示資料等	
意見内容	<p>全ての小学校で設置が出来ている点素晴らしい。日頃より地元の協力を得られるような取り組みは評価できる。</p> <p>（質問・改善点） 中学校の導入は。→本年度は美山中と美山小の小中一体となったコミュニティスクールを進めている。他の中学校ブロックは地域学校協同活動、地域と学校をつなぐ推進員は中学校に配置していくこととしている。 地域コーディネータは重要な役割をしている。学校運営協議会が持続することが大切。また今後の学校運営協議会の人材を育てることを考える必要がある。</p>		
内部評価	A	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり	
総合評価	A	A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）	

令和元年度南丹市教育委員会の点検・評価表（平成30年度対象）

平成30年度重点実践項目		2. 一人一人の能力を引き出し個性を伸ばす教育の推進	
点検・評価対象とする事務事業	特別支援教育推進事業	担当課	学校教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		大目標	1. 「ふるさと南丹市」を愛し、未来に向かって伸びる子どもを育む学校教育の推進
		目標	(5) 一人一人の個性や能力に応じた教育を進めます
事業目的	特別な教育的支援を必要とする児童生徒に対して、個に応じたきめ細かな指導や支援を行う。		
事業内容	特別支援教育支援員の活用による特別な支援を必要とする児童生徒への個別支援等の実施（特別支援教育支援員18名の配置） 特別支援教育関係研修会の実施 「育ちあう子らの集い」の開催	達成指標	
		・各校園の幼児児童生徒の実態把握と、適切な支援員の配置。	
		30年度予算額	
		21,431,000円	
成果	特別な支援を必要とする児童生徒の教育的ニーズに応じた指導や支援を行うことにより、一人一人の障がいやその特性を踏まえた指導や支援の充実を図ることができた。 特別支援教育コーディネーターを軸とした校内体制の確立が図れ、各校においてユニバーサルデザインの視点による授業の改善が進められた。 特別支援教育支援員等研修会の実施により、通常の学級における特別な支援を必要とする児童生徒への指導支援の在り方等についての研修を深めることができた。	達成度	
		・実態に応じ、適切な人材配置が図れた。 ・特別支援教育に係る研修が、いっそう充実したものとなった。	
		30年度決算額	
		21,400,667円	
課題	成果により授業の改善や各校・園等との連携、支援の在り方の研修を深めたこと等によって本市における特別支援教育が充実してきてはいるが、多様化、複雑化している特別な支援を必要とする幼児児童生徒の理解や対応、「合理的配慮」の提供や基礎的環境整備の啓発に等しいの教職員研修を推進し、引き続き一人一人の教育的ニーズにより適切に対応できる指導力の向上を図る必要がある。		
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無	有	意見聴取に際しての提示資料等	
意見内容	<p>通級学級に支援員を配置している点評価できる。 (質問・改善点) 特別支援学級と18名の配置について。→通常学級に在籍している生徒で特別に支援が必要な子への支援員。 発達障害に対して通常学級内で支援している点は素晴らしい。 支援員の選考は。→教員免許所持者からの選考を基本としている。</p>		
内部評価	A	<p>※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり</p>	
総合評価	A	<p>A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）</p>	

令和元年度南丹市教育委員会の点検・評価表（平成30年度対象）

平成30年度重点実践項目		2. 一人一人の能力を引き出し個性を伸ばす教育の推進		
点検・評価対象とする事務事業	学校以外の場における教育の機会確保調査研究事業	担当課	学校教育課	
〈南丹市教育振興基本計画〉 における位置付け		大目標	1. 「ふるさと南丹市」を愛し、未来に向かって伸びる子どもを育む学校教育の推進	
		目標	(5) 一人一人の個性や能力に応じた教育を進めます	
事業目的	「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会確保等に関する法律」が成立したこと等を踏まえ、不登校児童生徒への効果的な支援等を行うため、将来的に教育支援センター機能を有した「適応指導教室」開設することとし、そのための準備・研究を行う。			
事業内容	南丹市等不登校児童生徒支援協議会（以下、支援協議会）の開催（3回） 南丹市適応指導教室設置準備委員会（以下、設置準備会）の開催（1回） 学習支援を中心とした南丹市適応指導教室「さくら」の試行実施（7月以降）		達成指標	
			南丹市「適応指導教室さくら」の平成31年度当初開設	
			30年度予算額	
		1,013,000円		
成果	支援協議会での状況報告・指導助言と南丹市適応指導教室（さくら教室）の試行による事例研究による研究体制を確立することで、学習支援の在り方だけでなく、学校や関係機関との連携による適応指導教室への児童生徒・保護者のつなぎ方についても研究ができ、来年度の本格実施にむけた動きができた。 設置準備委員会、支援協議会での協議及び指導助言を踏まえ、本市に適した教室運営や指導体制、通室手続き等について、その詳細を決定し次年度の開室に向けての準備を完了することができた。		達成度	
			要綱の策定や運営・指導体制等、開設にむけた取り組みが完了した。	
			30年度決算額	
		952,564円		
課題	次年度の本格実施にむけ、学校や保護者・地域に対して、適応指導教室の設置意義やその果たす役割等について、正しい理解が得られるよう、周知を行う。			
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無	有	意見聴取に際しての提示資料等		
意見内容	通常学級と支援学校が交流する素晴らしい取り組みであると考え。 （質問・改善点） 国の補助金を使って「さくら」を作ったのか。→府内15市で南丹のみ設置できていなかった。 全国的にフリースクールの授業を通常学級の単位に認めるか等争点になった経緯があると記憶している。			
内部評価	A	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。		
総合評価	A	※評価の判断基準は下記のとおり A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）		

令和元年度南丹市教育委員会の点検・評価表（平成30年度対象）

平成30年度重点実践項目		2. 一人一人の能力を引き出し個性を伸ばす教育の推進	
点検・評価対象とする事務事業	情報教育機器整備事業	担当課	教育総務課
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		大目標	1. 「ふるさと南丹市」を愛し、未来に向かって伸びる子どもを育む学校教育の推進
		目標	(1) 学校教育環境の整備充実に努めます
事業目的	教育情報システムの維持管理を図ることに併せ、将来を見越した、より有効な教育機器の活用整備と充実に資する。		
事業内容	○児童・生徒用パソコンの契約更新 ○ソフトウェア（セキュリティ対策ソフト使用ライセンス）の使用契約 ○市教委主催「南丹市ICT教育研究委員会」の開催（5回）		達成指標 平成29年度末 小学校 100% 中学校75% 校内LAN整備 小学校 100% 中学校100% 未整備の殿田中学校にタブレットを導入し、達成率100%を目指す。
			30年度予算額
			36,816,000円
成果	南丹市教育振興プランにおける〈情報化に対応したICT環境の設備充実〉の具体化に向け、設備整備の充実（ハード面）と、整備された設備の有効活用に向けたスキルアップ（ソフト面）の両軸を連動させ、情報教育に係るハード面を中心とする継続した環境整備を行うと共に、タブレット導入ができた。		達成度 タブレット導入 小学校 100% 中学校100% 校内LAN整備 小学校 100% 中学校100% 殿田中学校に導入。市内小中学校すべてに教育用タブレットの整備が完了。（30年度タブレット導入台数37台）
			30年度決算額
			36,727,200円
課題	整備計画に基づき、平成30年度中にタブレット導入100%完了へ向け計画的に事業を進めることができた。 今後は、文部科学省の第3期教育振興基本計画の策定を受け「学習者用コンピュータを3クラスに1クラス分程度整備」等、具体的に示された指標について、計画的に進める必要がある。 また設備面で、効率的効果的な情報教育の活動に向けた細部にわたる環境整備の検討を行い、南丹市ICT教育研究委員会を通して、学校教育におけるICT活用による学習活動の在り方や、配備したICT機器を使ったより効果的な学習指導の在り方の研究、それに伴う操作スキルを向上させるための研究システムの構築につなげたいと考える。		
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無	有	意見聴取に際しての提示資料等	
意見内容	ハード整備に加えソフト面でも「ICT教育研究委員会」を開催して対応して進められている点が評価できる。		
内部評価	A	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり	
総合評価	A	A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）	

令和元年度南丹市教育委員会の点検・評価表（平成30年度対象）

平成30年度重点実践項目		3. 人権尊重の視点を踏まえた豊かな人間性を育む教育の推進	
点検・評価対象とする事務事業	いじめ防止対策推進費	担当課	学校教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉 における位置付け		大目標	1. 「ふるさと南丹市」を愛し、未来に向かって伸びる子どもを育む学校教育の推進
		目標	3) 思いやりやいたわりの心など、豊かな人間性を育みます
事業目的	「南丹市いじめ問題対策連絡協議会等条例」に基づき設置した「南丹市いじめ防止等対策委員会」の指導助言等を踏まえいじめの未然防止等についての学校、家庭、地域社会のそれぞれの役割を明確にし、地域総がかりでいじめ根絶に向けた取り組みを推進する。		
事業内容	「南丹市いじめ防止等対策委員会」を年間3回開催し、いじめ調査結果やいじめ防止の取組状況を報告し、いじめ根絶に向けた助言を得る。 また、いじめの相談、重大事態が発生した際には、委員の専門的見地から助言・調査をいただく。 第1回会議 いじめ調査の結果概要報告 第2回会議 学校教育課所管の取組紹介・重大事態が発生した場合の対応について 第3回会議 いじめ調査の結果概要報告・社会教育課所管の取組紹介		達成指標
			・定期的な対策委員会を開催し、外部からの評価指導を得ることで、本市の取組のさらなる充実を図る。
			30年度予算額
成果	南丹市では、これまで「重大事態」の発生はなかったが、あった場合の対応等について確認する会議をもつことができた。学校の取組やPTA等の地域の取組に対する委員からの助言を生かし、学校現場等にフィードバックすることで、各校のいじめの未然防止等の取組に生かすことができた。		達成度
			・委員会開催ごとに市の現状を伝え、都度評価や指導を受けることができた。
			年度決算額
		167,000円	110,539円
課題	今年度も引き続き「いじめ防止等対策委員会」を開催し、各委員に本市の現状を説明することを通して、引き続きいじめ根絶にむけた助言を得ていく必要がある。		
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無	有	意見聴取に際しての提示資料等	
意見内容	すごく評価できる取り組み。 いじめの状況を把握して、解消する率が高い。重大事態発生時の対応が心配。		
内部評価	B	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）	
総合評価	B		

令和元年度南丹市教育委員会の点検・評価表（平成30年度対象）

平成30年度重点実践項目		3. 人権尊重の視点を踏まえた豊かな人間性を育む教育の推進	
点検・評価対象とする事務事業	学校司書等設置事業	担当課	学校教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		大目標	1. 「ふるさと南丹市」を愛し、未来に向かって伸びる子どもを育む学校教育の推進
		目標	3) 思いやりやいたわりの心など、豊かな人間性を育みます
事業目的	学力を形成するうえで基盤となるのは「ことば」であり、ことばの力は、思考・表現する力の根幹であることから、各学校に「ことばの力育成支援員」を配置し、言語環境の充実・整備を図ることで児童生徒の言語力育成ひいては、学力向上に寄与する。		
事業内容	小中学校に「ことばの力育成支援員」を配置し、学校図書館を拠点に下記のような取り組みとその充実を図った ①校内掲示等に係る言語環境の整備・充実 ②学校図書館に係る言語環境の整備・充実（図書整理・掲示物の効果的配置・貸出業務・図書のデータベース処理等） ③読書指導・図書館活用学習への協力と参画 ④市立図書館や各校との連携・情報共有による、児童生徒の言語環境の充実		達成指標 ・各学校図書館を中心とした言語環境の整備 ・図書館教育の更なる充実 ・育成支援員の研修の充実
			30年度予算額 7,250,000円
			達成度 ・言語環境の整備充実により、児童生徒の「ことば」への関心が高まった。 ・魅力的な図書館環境づくりにより、読書に対する意識が高まった。 ・支援員の研修内容の充実
成果	配置校の教育活動に言語環境面で効果的に関わり、児童の「ことば」への関心を高め、ことばの力育成につなぐことができた。 学校図書館を拠点に学校図書担当者と連携し、皆が足を運びたいくなるような図書館づくりと読書量の増加に向けて創意ある取組を進め、「読書センター」「学習センター」「情報センター」として児童・生徒への支援や助言を行うことができた。 支援員の定例会議を持ち、市立図書館とも連携しながら、交流や研修を行うことにより、それぞれが取り組む内容や支援の在り方について共通理解を図りながら、支援力を高めることができた。		30年度決算額 7,208,270円
課題	各支援員の配置校での取組やそれぞれのスキルを交流し合い、「ことばの力」育成の取組を充実させる。 本配置事業を生かし学校図書館の機能の充実を図り、教育環境の整備を進める。 支援員の人材確保とスキルの向上		
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無	有	意見聴取に際しての提示資料等	
意見内容	<p>（質問・改善点） 市立図書館とはどのような連携をしているのか。→読書環境を高めるにはどのようにしたら良いか、また、読書活動推進計画を作成するにあたってどのような取り組みが出来るか協議を行った。 支援員は全ての学校に入っているのか。→1名入っている。 南丹市が掲載されている図書コーナーを各学校につくっても良いのでは。子どもたちに読書活動を通して市民意識が向上し、郷土愛の高揚につながると考える。</p>		
内部評価	B	<p>※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり</p>	
総合評価	B	<p>A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）</p>	

令和元年度南丹市教育委員会の点検・評価表（平成30年度対象）

平成30年度重点実践項目		3. 人権尊重の視点を踏まえた豊かな人間性を育む教育の推進	
点検・評価対象とする事務事業	心のバリアフリー推進事業	担当課	学校教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉 における位置付け		大目標	1. 「ふるさと南丹市」を愛し、未来に向かって伸びる子どもを育む学校教育の推進
		目標	3) 思いやりやいたわりの心など、豊かな人間性を育みます
事業目的	全ての幼児、児童生徒が共に学び合い育ち合う共生社会の実現を目指した教育を特別支援教育の重点目標として掲げ、障害のある子とない子どもとの交流及び共同学習等を通して障害者理解の一層の推進を図る。		
事業内容	交流及び共同学習を継続的、効果的に実施するため、南丹市八木町をモデル地域とし実践研究を進めてきた。 ア. 心のバリアフリー事業研究推進委員会の設置 イ. 交流及び共同学習の充実 ウ. 育ち合う子らの集いの充実 エ. 心のバリアフリー交流会の開催		達成指標
			交流者の満足度80%
			30年度予算額
		2,681,000円	
成果	交流及び共同学習において、モデル地域を中心とした事前・事後学習の設定、充実や評価の在り方など、先進地の事例を参考にしながら、交流及び共同学習南丹市モデルを作成し、年度末に開催した成果報告会等により他地域に波及させることができた。 八木中学校ブロック各校と府立丹波支援学校の児童生徒を対象に「心のバリアフリー交流会」を開催し、障がい者アスリートとの交流及び講演を通して、児童生徒の障がいに対する意識の変容を図ることができた。 また、交流会を開催するにあたって、各モデル校において国際パラリンピック委員会公認教材「I'm possible」を活用した学習やポッチャの体験等、事前学習を積極的に行い、児童生徒は当日の交流へ意欲的に参加できた。		達成度
			アンケート集約による満足度87.8%
			30年度決算額
		2,239,559円	
課題	交流及び共同学習の授業公開等を通して、他中学校ブロックの小中学校へ、様々な交流方法や交流形態を示すとともに、保護者・地域社会への啓発を一層推進する必要がある。 また、この事業を一つの契機として障害者理解の一層の推進、共生社会の実現のために、学校の状況に応じた継続発展可能な交流及び共同学習の取組の充実を南丹市全小中学校において図る必要がある		
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無	有	意見聴取に際しての提示資料等	
意見内容	府立丹波支援学校と八木中学校ブロックとの交流は素晴らしい取り組みであると考えます。 また、授業公開を行う等、公開する機会を作っている点が素晴らしい。		
内部評価	A	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）	
総合評価	A		

令和元年度南丹市教育委員会の点検・評価表（平成30年度対象）

平成30年度重点実践項目		2. 一人一人の能力を引き出し個性を伸ばす教育の推進	
点検・評価対象とする事務事業	安全・安心な学校教育環境整備事業	担当課	教育総務課
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		大目標	1. 「ふるさと南丹市」を愛し、未来に向かって伸びる子どもを育む学校教育の推進
		目標	(1) 学校教育環境の整備充実に努めます
事業目的	学校施設について、危険個所の改善や老朽により機能や安全性が低下した学校施設の改修を行うことにより、安全・安心で快適な学習環境の整備を図る。		
事業内容	設計業務委託契約により八木西小学校及び八木東小学校のプール改築工事の設計業務や工事請負契約により園部小学校のフェンス設置工事等の工事を実施した。 〔業務内容〕 ・八木西小学校プール改築工事設計業務 ・八木東小学校プール改築工事設計業務 ・八木西小学校敷地造成工事測量設計業務 ・殿田中学校グラウンド改修測量設計業務 〔工事内容〕 ・園部小学校フェンス設置工事 ・殿田中学校グラウンド改修工事 ・八木中学校防犯カメラ設置工事		達成指標 教育環境の整備・充実のため、八木西・東小学校のプール改築工事の設計を行う。
			30年度予算額
			90,305,000円
成果	園部小学校にフェンスを設置することによりイノシシ等の獣の侵入を防ぐことができ、また、八木中学校に防犯カメラを設置することにより安心・安全な学習環境を整備することができた。八木西・東小学校プールの改築工事に向け、設計図書の作成をすることができた。		達成度 当初計画していた八木西・東小学校プール改修工事設計に加え、園部小学校フェンス設置工事や八木中学校防犯カメラ設置工事等を実施することにより安心・安全な学校施設の整備をすることができた。
			30年度決算額
			85,217,240円
課題	建築後、長期間が経過している学校施設が多い状況の中、老朽化対策と併せ長寿命化を図る手立てを検討するとともに、安全・安心な施設、設備の充実を図るため、引き続き学習環境の整備を行う必要がある。		
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無	有	意見聴取に際しての提示資料等	
意見内容	予算規模大きいが、年次計画により整備されている点評価できる。		
内部評価	A	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり	
総合評価	A	A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）	

令和元年度南丹市教育委員会の点検・評価表（平成30年度対象）

平成30年度重点実践項目		7. 学校現場における働き方改革の推進	
点検・評価対象とする事務事業	学校現場における業務改善加速事業	担当課	教育総務課
〈南丹市教育振興基本計画〉 における位置付け		大目標	1. 「ふるさと南丹市」を愛し、未来に向かって伸びる子どもを育む学校教育の推進
		目標	(1) 学校教育環境の整備充実に努めます
事業目的	次代の働きやすい学校職場環境の実現 ～誰もが、やりがい感と充実感をもって意欲的に教育に取り組める職場環境をめざして～		
事業内容	平成28年度実勤務時間実態調査における本市教職員の実勤務時間の実態を踏まえ、指定校を中心として全市で取り組む学校業務改善方策の実施と効果検証を通して、その縮減を図り、教育の質をより高め、誰にとっても働きやすい学校職場環境モデルを構築し、市内全学校に波及させる。		達成指標
			・実態の改善 3年間で、平成28年度実勤務時間実態調査結果（週平均60.75時間）の20%縮減をめざす。 ・意識の改善
			30年度予算額
		2,602,000円	
成果	昨年度から引き続き各校それぞれ自校の現状改善に向けた実践が取り組まれ、研究会・担当者会を通じて取組についての情報交換を行うことにより自校で取組めそうな実践方法を積極的に取り入れ、業務改善に対する姿勢や意識に高まりがみられた。		達成度
			南丹市業務改善ポリシーに掲げた目標指標、超過勤務時間10%削減に対して7.68%、業務改善意識が高まったと肯定的に回答する割合70%以上に対して49.56%、自己研鑽や余暇時間が増えたと肯定的に回答する割合70%以上に対して31.86%と目標値までは達していないが、超過勤務時間平均が1.3時間削減されるなどの効果がみられた。
			30年度決算額
		2,350,631円	
課題	業務改善に対する姿勢や意識に高まりがみられるものの、昨年度同様実勤務時間の大幅な縮減には繋がっていない（余裕ができた時間を利用して教材研究を充実させる等）ため、意識改革をすすめる方策が必要であると考える。		
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無	有	意見聴取に際しての提示資料等	
意見内容	<p>目標に対する数値評価と、努力・進歩における評価が有る。本事業は目標値は達成していないが、働き方改革が一般的に報道されていない時期（H28～）から取組み、部活動指導指針や、事例集を発行している点が評価できる。 （質問・改善点） 子供の抱えている課題、複雑で教職員も大変な状況。部活動があるため全国的に中学校の勤務状況が厳しい。学校の中で合理的に解決する仕組みを、地域の特色を生かしてチームで解決する仕組み作りを南丹市モデルに入れてほしい。</p>		
内部評価	B	<p>※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり</p>	
総合評価	B	<p>A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）</p>	

令和元年度南丹市教育委員会の点検・評価表（平成30年度対象）

平成30年度重点実践項目		7. 基本的人権の尊重という視点に立ち人権教育・啓発推進協議会をはじめとした関係団体等と連携し、市民の主體的な学習と実践活動につながる人権教育の推進		
点検・評価対象とする事務事業	人権教育事業（人権教育講座）	担当課	社会教育課	
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		大目標	2. 南丹市の教育資源を活かして生涯にわたる学びを支える教育環境づくり	
		目標	（1）人権尊重のまちづくりを進める人権教育の充実に努めます	
事業目的	人権に関する学習機会を提供し、市民の人権意識の高揚を図ることを目的とし実施。			
事業内容	第1講 平成30年6月9日（土）南丹市国際交流会館 イベントホール 演題・講師「差別解消法三法の意義と課題について」 部落解放・人権研究所 所長 谷川 雅彦 さん（参加：90名）		達成指標	
	第2講 平成30年8月3日（金）日吉町生涯学習センター 大ホール 映画「しゃぼん玉」上映（参加：172名）		平均入場者数が100名を超える。	
	第3講 平成30年10月27日（土）日吉町生涯学習センター ホール 演題・講師「ハンセン病と人権－ハンセン病問題から学ぶこと－」 講師 国立ハンセン病資料館事業部社会啓発課 参与 儀同 政一 さん（参加：40名）		30年度予算額	
		502,000円		
成果	市民に学習機会を提供し、身近な話題から学ぶことで、人権意識の高揚を図ることができた。 主として、指導者の立場の方の参加を促し、人権教育指導者としての専門性の向上を図ることができた。 （事業内容の内訳） 講師謝礼、消耗品（チラシ紙代 等） 映画フィルム借上 等		達成度	
			平均100名と目標は達成できたが、広報の方法などについて、課題が残った。	
			30年度決算額	
		492,760円		
課題	受講することにより人権意識を育み、指導者の養成・育成につなげるという点を重視している。 今後においては参加者の増加をめざすだけでなく、指導者としての意識を高めるための更なる内容充実が必要である。			
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無		有	意見聴取に際しての提示資料等	平成30年度社会教育事業報告
意見内容	<p>（質問・意見）</p> <p>人権教育という分野にゴールはなく、そのなかで先進的に取り組んでいただいていると考えるが、PRという点で学者連携で学校で講演をしてもらうことも大切。子ども達にもぜひ聞いてもらいたい。学校とタイアップしてこの事業を推進してほしい。</p> <p>地域での子ども会は残っているのか。→地域からの申し出により補助している数を把握しているが減ってきている。</p> <p>地域行事の中で子供がどういう役割をしているのか把握しているか。→数値として把握していないが、地域学校協働活動の実績で地域と子どもの連携が図れるかがわかる。</p> <p>地域学校協働活動の担当をそれぞれの学校につける予定か。これが動くとすごく良い。</p> <p>→コミュニティ・スクールの一員として、美山をモデルとして地域と学校を結ぶ地域コーディネーターを市内に広げていく。</p>			
内部評価	B	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり		
総合評価	B	A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）		

令和元年度南丹市教育委員会の点検・評価表（平成30年度対象）

平成30年度重点実践項目		いのちを大切にできる心、相手を思いやる心等、豊かな心を育む 家庭の教育力を高めるための学習機会の充実	
点検・評価対象とする事務事業	家庭教育支援事業	担当課	社会教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉 における位置付け		大目標	2. 南丹市の教育資源を活かして生涯にわたる学びを支える教育環境づくり
		目標	(2) すべての教育の出発点としての家庭教育を支援します
事業目的	核家族化が進行する中で、両親の共働きなどが増え、親子関係を築く必要が高まっている。また、地域のコミュニティが希薄になり、地域の教育力の低下が課題で、育児に対する不安を持つ親が増加している。そのような中、講座や懇談会を通じた親育ち、親学びの場とし、家庭での教育力を向上させるとともに、保護者同士の連携を深める。		
事業内容	心身の健康と豊かな心を育む家庭の教育力を高めるために、幼稚園、小中学校やPTAなどと連携を図りながら、基本的な生活習慣・学習習慣・食育などの重要性について理解を促し、家庭における教育力の向上につなげる事業を実施する。	達成指標	
		全小中学校・幼稚園での実施を目指し、育児への不安を解消し、保護者同士の交流を深め連携を図る。	
		30年度予算額	
		143,000円	
成果	実施校・園では、地域の特性を生かした取り組みの推進により、親育ちの大切さを学び合うとともに、学習の機会を通じて保護者同士の交流も深まった。 親子人権研修、親のための応援塾、子育て講演会、親子ふれあい活動など子供の発達段階に応じて多岐にわたるテーマで実施した。	達成度	
		保護者の交流や連携が図れた。9校（園）で19講座実施できた。（昨年度：7校（園）16講座実施）	
		30年度決算額	
		102,189円	
課題	回数を重ねるごとに内容が充実してきた。今後、未実施校について、事業内容を周知し積極的な事業実施を促していく。その一方でより効果的な実践ができるような予算措置が必要である。		
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無	有	意見聴取に際しての提示資料等	平成30年度社会教育事業報告
意見内容	<p>（質問・意見）</p> <p>児童福祉と関連してくるが、「集いの広場」事業を児童福祉の支援課で全国で展開されている。それとのすみわけで、教育の家庭教育事業であり、幼少期から小学生まで誰でも参加できる事業。地域と交流できるような家庭教育支援が行われていると思うが、母親同士の交流が出来ると児童福祉とは違う観点の教育事業になると考える。</p>		
内部評価	B	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）	
総合評価	B		

令和元年度南丹市教育委員会の点検・評価表（平成30年度対象）

平成30年度重点実践項目		10. 市民相互がつながり合い、生涯にわたって豊かに学び合うことができる、学習環境の充実		
点検・評価対象とする事務事業	社会教育施設改修事業 （南丹市公民館機能充実事業）		担当課	社会教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉 における位置付け		大目標	2. 南丹市の教育資源を活かして生涯にわたる学びを支える教育環境づくり	
		目標	(4) 市民の生涯にわたる学習環境の充実に努めます	
事業目的	社会教育施設4館（園部公民館・八木公民館・日吉町生涯学習センター・美山文化ホール）に係る耐震不足への対応・大規模改修（耐長寿命化や機能移転等）を計画的に行うことで生涯学習環境の整備を図る。			
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・園部公民館の耐震補強と長寿命化を目的とした大規模改修の実施設計 ・市役所八木支所への公民館機能移転と長寿命化を目的とした大規模改修の実施設計及び支所書庫内の文書等運送 ・両施設の石綿含有分析調査 		達成指標	
			両施設の大規模改修工事に向けた設計図書の作成	
			30年度予算額	
			24,093,000円	
成果	両施設の大規模改修に向けた実施設計や事前準備を実施できた。 （実施内容の内訳） 石綿含有分析調査 実施設計業務委託 八木支所文書等運送委託		達成度	
			両施設とも改修工事の設計図書作成完了。	
			30年度決算額	
			23,519,160円	
課題	次年度からの改修工事の円滑な進捗に向けた地道な調整体制が必要。			
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無	有	意見聴取に際しての提示資料等		
意見内容	改修中であるためB評価。			
内部評価	B	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）		
総合評価	B			

令和元年度南丹市教育委員会の点検・評価表（平成30年度対象）

平成30年度重点実践項目		9. 「地域社会総がかり」で絆を深め、子どもが育つ環境づくり	
点検・評価対象とする事務事業	体育振興事業	担当課	社会教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		大目標	2. 南丹市の教育資源を活かして生涯にわたる学びを支える教育環境づくり
		目標	(3) 地域社会の力を活かして子どもが育つ環境づくりを進めま
事業目的	スポーツは市民の生活をより豊かにする生活文化と位置付け、生涯スポーツや地域スポーツを推進することにより市民の暮らしに活力や潤いを与え、また健康で生き生きとした生活と青少年の健全育成を図る。		
事業内容	地域スポーツを推進するため、地域事業へスポーツ推進委員を派遣することや地域で運営する総合型地域スポーツクラブの育成を図っていく。また、生涯スポーツを推進するため、地域で活動する競技団体や総合型地域スポーツクラブと連携し、子供から高齢者、障害のある人まで幅広い方を対象としたスポーツ事業を推進する。 競技団体の活動の推進と競技力の向上を目指し、競技団体と連携し府民総体の予選大会を開催し、より多くの方に府民総体の市代表の門戸を開き、各競技の活性化と競技人口の増加を図る。 本年度もスポーツ協会や南丹市海洋センター指導者会等と連携した事業の他、スポーツ協会及び関連団体による事業の展開、スポーツ少年団による指導者研修会及び講演会を開催。		達成指標 子どもから高齢者、障害のある人まで、地域スポーツから競技スポーツまで幅広いスポーツの推進を図る。
			30年度予算額 1,589,000円
成果	日々の事業では、総合型地域スポーツクラブにおいて地域スポーツの推進に向けた取組、スポーツ少年団や各競技団体において競技力の向上ができた。また、スポーツ少年団等に所属しない子どもたちへのスポーツの場を提供できる事業も取り組めた。 府民総体については、ほぼ全種目へ代表の派遣ができ、本年度においては男子バレーボール、陸上競技男子走り幅跳びの準優勝をはじめ上位入賞種目も増え、他の種目についても上位入賞を目指せる競技となりつつある。 【成績】総合成績 11位、市町村対抗種目入賞競技 バレーボール男子（2位）、陸上競技 走り幅跳び男子（2位）、ゲートボール男子（3位）、バレーボール女子（4位）、ポウリング（4位）、テニス（7位）、マスターズ種目 陸上競技砲丸投げ男子（優勝）		達成度 ニュースポーツやウォーキングなどの軽スポーツを用いたスポーツ推進が図ることができた。また、競技スポーツにおいては府民総合体育大会において多くの種目で入賞など底上げができた。
			30年度決算額 1,058,267円
課題	地域の特色を生かすことは重要なことである一方で、南丹市としての取り組みとなるよう、引き続き関係機関と調整していく必要がある。		
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無	有	意見聴取に際しての提示資料等	平成30年度社会教育事業報告 南丹市スポーツ推進計画
意見内容	よい取組であり評価できる。		
内部評価	A	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）	
総合評価	A		

令和元年度南丹市教育委員会の点検・評価表（平成30年度対象）

平成30年度重点実践項目		10. 市民相互がつながり合い、生涯にわたって豊かに学び合うことができる、学習環境の充実	
点検・評価対象とする事務事業	講座開設事業（公民館事業）	担当課	社会教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		大目標	2. 南丹市の教育資源を活かして生涯にわたる学びを支える教育環境づくり
		目標	（4）市民の生涯にわたる学習環境の充実に努めます
事業目的	実生活に即する教育・学術及び文化に関する各種事業を行い、市民の交流と、教養の向上・健康増進等を図り、生活文化の振興・社会福祉の増進・生涯学習の推進を目指す。		
事業内容	各社会教育施設を拠点として地域性を活かした講座事業を、次の通り実施。 ・さくら楽習館 全10講座、専門学部6学部 ・春休みアニメ上映 ・その他趣味、教養関係(料理、大正琴、手芸、英会話、将棋、パソコン、きのこ栽培など) ほか		達成指標
			魅力ある講座を企画し、参加者及び施設へ利用者を増やす。
			30年度予算額
		1,152,000円	
成果	高齢者生涯学習講座「さくら楽習館」を開講し、市内社会教育施設を利用しながら全市に学び合いの場を広めることができた。受講形態を年間通して受講する教養学部と、サークル活動を中心とした専門学部に編成した。 また、各施設の地域性を活かした事業が実施でき、講座を通して住民の交流や文化的教養の向上等を図ることができた。（年間述べ参加者数3,648人）		達成度
			さくら楽習館の登録者は112人（教養学部70人、専門学部42人）となった（29年度：124人）
			30年度決算額
		898,130円	
課題	講座内容の充実を図り、様々な年代の方に参加してもらえるような魅力ある講座を企画していくとともに、講座参加者によるサークル化への移行が必要。		
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無	有	意見聴取に際しての提示資料等	平成30年度社会教育事業報告
意見内容	（質問・意見） さくら楽習館の利用について55歳以上の区切りは中途半端ではないかと考える。 各集落の集会所、公民館は対象になっているのか。→地元で利用される公民館は対象ではない。所管も市長部局。 公民館は共同生活の拠点であり重要な役割を果たしており、以前は中央公民館の下部組織に各集落の公民館が有る形であったが現在はどうか。→以前の美山の仕組みであるが、今は無い。 社会教育予算が縮小されている中で国の答申（別資料）について。ひとり一人の集う場所として、地方創生の場所として公民館は大事とされた。予算の関係で市長部局が集会所を運営するが、今後は、教育委員会がきちんと指導するようということが特例で出ている。教育施設ではなく、市長部局がコミュニティで使用する集会施設としての機能が強くなっている中で、教育の中心になる教育施設としての担保を教育委員会として、教育の指導を緩めることが無いようという内容で一括法が定められた。市長部局が所管することが有っても「教育」ということを盛り込むようにとされており、今後この趣旨を生かすような運営をしていかないといけない。		
内部評価	B	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。	
総合評価	B	※評価の判断基準は下記のとおり A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）	

令和元年度南丹市教育委員会の点検・評価表（平成30年度対象）

平成30年度重点実践項目		10. 市民相互がつながり合い、生涯にわたって豊かに学び合うことができる、学習環境の充実	
点検・評価対象とする事務事業	講座開設事業（博物館・郷土資料館）	担当課	社会教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		大目標	2. 南丹市の教育資源を活かして生涯にわたる学びを支える教育環境づくり
		目標	（4）市民の生涯にわたる学習環境の充実に努めます
事業目的	「食」や「遊び」などの切り口から歴史や文化に親しむきっかけを提供することを目的に開催する。また、見聞きするだけでは体験できない喜びや達成感を他の参加者とともに感じる内容とする。また、体験講座を通じて、現在の暮らしを振り返り、参加者自らの生活を考える契機を提供する。		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・5/3～5 府民の森ひよし「新緑祭」関連事業【郷土資料館】 「洞窟探検」：参加者12名（昨年16名）/「銭太鼓」：参加者14名（昨年20名）/「つくって遊ぼう」：参加者89名/「つくって遊ぼうと餅つき大会」：参加者74名（昨年76名）/「紙ヒコーキ飛ばし大会」：参加者43名（昨年34名） ・6/17「朴葉ご飯づくり」【郷土資料館】：参加者16名（昨年10名） ・8/11「南丹の素材を使った生き物づくり」【文化博物館】：参加者38名 *新規事業 ・8/18「戦争のお話し」【郷土資料館】：参加者41名 *新規事業 ・11/22・29、12/6「初歩の古文書講座」【文化博物館】：参加者 各回13名（昨年8名） ・11/23「白みそづくり」【郷土資料館】：参加者10名（昨年6名） ・12/23「注連縄づくり」【郷土資料館】：参加者18名（昨年11名） ・3/10「年中みそづくり」【郷土資料館】：参加者11名（昨年15名） 		達成指標
			新規の体験講座を1回以上取り入れる。
			30年度予算額
		117,000円	
成果	<p>「新緑祭」では、従来から実施していた子ども向けの洞窟探検や紙ヒコーキ飛ばし大会などを継続して行った。戦争展に合わせ戦争体験を語ってもらう講座を開催した。また、文化博物館では、開館20周年を記念して中央図書館との共催事業で「南丹市の素材を使った生き物づくり」を開催し、参加した子どもたちは木材や植物など身近な素材を利用し創造性豊かな生き物をつくることができた。秋に昨年度からの継続事業として古文書講座を開催した。参加者も増加したことから関心の高さをうかがうことができる。</p>		達成度
			新規事業を実施した。郷土資料館での体験講座に加えて、文化博物館でも、開館20周年記念体験講座を開催した。全体参加者405人（昨年度：415人）
			30年度決算額
		101,206円	
課題	郷土食講座の参加者は一定の参加者があるが、より多くの参加を求めるため、新規の事業展開も考えていきたい。また、単独事業に加えて、課内事業や他の団体との連携事業の数を増やし、相乗効果を求めていく必要がある。広報手段についても、SNS等を活用することで、アクセス件数も増加し、一定の効果が出ている。しかしアンケート等を徴した場合、広報不足を指摘されるので新たな媒体を求めていく必要がある。		
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無	有	意見聴取に際しての提示資料等	平成30年度社会教育事業報告
意見内容	新しく事業を起こしている点において非常に評価できる。 戦争展に合わせた体験談開催についても評価できる。		
内部評価	B	<p>※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり</p> <p>A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）</p>	
総合評価	A		

令和元年度南丹市教育委員会の点検・評価表（平成30年度対象）

平成30年度重点実践項目		10. 市民相互がつながり合い、生涯にわたって豊かに学び合うことができる、学習環境の充実	
点検・評価対象とする事務事業	講座開設事業（図書館）		担当課 社会教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		大目標	2. 南丹市の教育資源を活かして生涯にわたる学びを支える教育環境づくり
		目標	（4）市民の生涯にわたる学習環境の充実に努めます
事業目的	オーサービジット事業を主体に様々なアプローチで講座事業を実施することにより、読書意欲の向上を図り、生涯学習の柱の一つである読書活動の推進に寄与する。		
事業内容	・オーサービジット事業 ①講師：高島那生（絵本作家、イラストレーター） 8月11日 市民親子対象 南丹市立文化博物館との共催 博物館の原画展にあわせ開催。原画の説明、絵本の読み聞かせ、南丹市の自然の素材を使った生き物づくり ②講師：高島純（絵本作家） 11月25日 一般市民対象 ワークショップ「ぼくの、わたしの、どうぶつえんづくり」 好きな動物をあげた後、いくつかの動物から作品を作る。関連した絵本の読み聞かせ ③講師：蓮見 恭子（小説家） 12月4日 殿田中学校生徒、読書活動指導員 演題「作家の仕事とは・・・」（その他） ・中央図書館20周年企画「山野草教室」（3/9 講師山村善彦）・「読書ボランティア養成講座」（読書ボランティアとの共催） ・放課後児童クラブへの読み聞かせ ・年間を通して定期的に4館（室）でおはなし会や工作会の実施		達成指標
			様々な企画を各館・室で行うことにより、本に興味を持ってもらい、来館者数、貸出冊数を増やす。
			30年度予算額
成果	①開館20周年事業として博物館と共催で開催することができ、博物館に展示された絵本の原画を著者が説明するという貴重な体験が出来た。催しは、南丹市の素材を使って参加者が自由に生き物をつくり、絵本作家ならではのアプローチにより、楽しい時間を共有できた。著者本人からの読み聞かせも魅力の一つであった。 ②子ども達の想像力を掻き立てるワークショップと子ども達を引きつける魅力ある読み聞かせに、「楽しい」を原点とする読書活動に繋がった。 ③著者の作家になるまでの経緯や、プロとして1冊の本を作り上げるまでの行程を聞くことが出来、本を通じて将来を考える一助にもなったと考える。 （その他）「山野草教室」は大人の方に人気があり、中央図書館で育てている山野草を見に、また、山野草の本を借りにくる来館者が増えた。		達成度
			著者とのワークショップや読み聞かせにより楽しい時間を共有することで作品への親しみを持つことが出来た。工夫を凝らした催しを定期的に行う事で来館に繋がった。 年間来館者数：58,897人（昨年比：-3.6%）年間貸出冊数（個人）：（昨年比：-5.1%）
			30年度決算額
		265,966円	
課題	多くの児童生徒に機会を与えることが出来る様に努める。 市民に参加してもらえよう広報等工夫が必要。		
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無	有	意見聴取に際しての提示資料等	平成30年度社会教育事業報告
意見内容	博物館と図書館連携して事業を展開している点は新しい取組として評価できると考える。		
内部評価	B	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり	
総合評価	A	A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）	

令和元年度南丹市教育委員会の点検・評価表（平成30年度対象）

平成30年度重点実践項目		10. 市民相互がつながり合い、生涯にわたって豊かに学び合うことができる、学習環境の充実	
点検・評価対象とする事務事業	展示会事業	担当課	社会教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		大目標	2. 南丹市の教育資源を活かして生涯にわたる学びを支える教育環境づくり
		目標	(4) 市民の生涯にわたる学習環境の充実に努めます
事業目的	南丹市にまつわる歴史的・文化的な資料を中心に紹介する展示会を開催することにより、市民の学習意欲を刺激し、生涯にわたっての学習の機会を提供する。また、地域をより深く知ることににより、郷土への愛着心を醸成する。		
事業内容	①郷土資料館春季企画展「明治150年新聞号外展」平成30年4月14日～6月3日（37日間/入館者数：905人） ②文化博物館収藏品展「岩崎家と丹波」平成30年6月2日～7月16日（38日間/入館者数：423人 昨年同時期：325人） ③文化博物館夏季企画展「高島那生絵本原画展～絵本の裏側～」平成30年7月21日～9月2日（38日間/入館者数：551人）（昨年同時期：343人） ④郷土資料館夏季企画展「戦争展～遺品が語る平和へのメッセージ～」平成30年7月21日～9月17日（50日間/入館者数：500人 昨年同時期：730人） ⑤文化博物館秋季企画展「人見少華～南画を極めた文人画家～」平成30年9月8日～10月21日（38日間/入館者数：523人 昨年同時期：676人） ⑥郷土資料館秋季企画展「中嶋政樹写真展～湖底に消えた村の記録～」平成30年9月22日～11月25日（47日間/入館者数：1288人 昨年同時期：663人） ⑦文化博物館秋季特別展「田村宗立展～リアリティーを追求した画家～」平成30年10月27日～12月2日（32日間/入館者数：342人） ⑧郷土資料館収藏品展「昔のくらしと道具展」平成31年1月19日～2月22日（23日間/入館者数：233人 昨年同時期：112人） ⑨文化博物館冬季企画展「日本南画院選抜展～東洋美術の精粋水墨画～」平成31年2月6日～2月17日（11日間/入館者数：307人） ◇年間公開予定日 87日		達成指標
			一つの展示会で入館者500人以上を目指す。学校と連携した取り組みを増加させる。
			30年度予算額
			7,485,000円
成果	文化博物館では、春に収藏品展として平成25年に寄贈を受けた岩崎家資料の調査成果展「岩崎家と丹波」を開催した。夏には、開館20周年を記念し、中央図書館との共催事業として「高島那生絵本原画展」を実施した。秋は、南丹市ゆかりの画家人見少華（没後50年）、田村宗立（没後100年）がそれぞれ節目の年を迎えたことから回顧展を開催し画歴を振り返った。冬季は日本南画院の協力を得て、同院の選抜展を開催した。郷土資料館では、明治を150年を記念して150年の出来事を報じた号外を100点展示した。夏には、平成24年から開催している戦争展を実施した。秋には、日吉ダム建設により水没した中・天若地区の風景や人物、行事などを撮影した写真展を開催した。冬には、小学校3年生の授業内容に対応したむかしのくらしと道具展を実施した。		達成度
			9つの展示会中、5つが目標500人以上を達成した。また、昨年度に引き続き学校からの参加を得ることができた。
			30年度決算額
			7,019,829円
課題	文化博物館は開館20周年を迎えた年であったことから、通常より多くの展示会を開催した。ただ、展示内容により参加人数にはばらつきがみられた。どの内容についても500人という目標値を超えるものとした。また、課題であった他団体との連携展も開催することができた。今後はこの数も増やしていきたい。学校との連携については、学校からの見学という側面が強いので、もう一歩進んだ取り組みを行いたい（共同企画展など）。 （決算額の内訳） 謝礼 272,000円、旅費 193,860円、消耗品費 525,286円、印刷製本費 2,671,060円、通信運搬費 226,368円、任意保険料 98,545円、展示資料監視業務委託料 236,520円、展示資料撮影業務委託料 429,840円、美術品運搬委託料 1,225,800円、展示資料製作業務委託料 333,720円、有料道路通行料 1,030円、展示資料借上料 120,000円、諸器具機械購入費 93,960円、事務用器具購入費 106,920円、標本・見本購入費 484,920円		
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無	有	意見聴取に際しての提示資料等	平成30年度社会教育事業報告
意見内容	様々な取組が展開されており、評価できる。		
内部評価	A	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）	
総合評価	A		

令和元年度南丹市教育委員会の点検・評価表（平成30年度対象）

平成30年度重点実践項目		10. 市民相互がつながり合い、生涯にわたって豊かに学び合うことができる、学習環境の充実	
点検・評価対象とする事務事業	文化財保護事業	担当課	社会教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		大目標	2. 南丹市の教育資源を活かして生涯にわたる学びを支える教育環境づくり
		目標	(4) 市民の生涯にわたる学習環境の充実に努めます
事業目的	資料調査を継続的に進めることにより、市内にある文化財の状況を確認し、伝統文化を継承する基礎づくりを行う。また、普及啓発活動を進め、文化財を身近に体感できるように努める。		
事業内容	<p>調査事業は、経年劣化や災害による被災状況を確認し、専門家や京都府と相談をしながら各補助事業を活用し文化財を保存していくための補助事業事前調査と、未指定である文化財の価値を調査し文化財として位置づけて後世に伝えるための価値調査に分けられる。30年度は8月、9月に続けて襲来した台風による被害が市内でも発生し、事前調査を経て15件を災害復旧事業として京都府への申請事務。</p> <p>また、市内の社寺や民家について国登録文化財候補として文化庁と現地調査を4か所実施し、うち1件を国登録文化財への申請事務。その他、昨年度に引き続き大谷大学や京都美術工芸大学と連携し、調査や修理事業を実施。</p> <p>普及啓発事業としては、文化財を紹介する取り組みとして、生涯講座の1つとして開催される歴史講座や体験講座を年1～2回程度実施するとともに年度末に文化財調査報告書の発行を行う。</p>		達成指標
			専門家や地元と連携し、文化財の調査や修理事業を進める。
			30年度予算額
			1,418,000円
成果	<p>補助事業事前調査を行うことにより、被災分を含めて京都府関係の補助事業を実施することができた。大学との連携においては、大谷大学と連携して報告書を発行することができ、京都美術工芸大学と地元（殿田区）と連携して仏像修理を行った。</p> <p>国登録文化財候補の現地確認を実施し、その中から文化庁へ1件申請することができ、新たな文化財の掘り出しにつながった。</p> <p>普及啓発事業については、歴史講座や子どもを対象としたクイズラリー、園部立藩400年を紹介するパンフレット作成や市内での巡回パネル展を実施した。</p> <p>☆刊行図書『南丹市文化財調査報告書12』 ☆歴史講座（7/12・2/15） ☆立藩400年パネル展示（10/27・1/26～4/5） ☆子供向けクイズラリー（8/12）</p>		達成度
			大谷大学や京都美術工芸大学、殿田区などと共同で文化財の調査や修理事業を行い、報告書を発行することができた。
			30年度決算額
			772,740円
課題	市内には多くの文化財があり、指定されているもの以外にも貴重な有形・無形の文化財が継承されてきている。それらの保存のための基礎的な調査や普及啓発活動を行っているが、さらに継続した調査を進め、本市ホームページを活用した広報活動も行う。		
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無	有	意見聴取に際しての提示資料等	平成30年度社会教育事業報告
意見内容	<p>名古屋市では、地域のことを学んだ方々（マイスター）が学校等で教える、マイスター養成講座という市・区の事業があり、マイスターが文化財について子どもたちに教えることをプログラム化することができる、学社連携に一步繋がるのではないかと考える。</p> <p>「南丹学」として、マイスター登録を検討してはどうかと考える。</p>		
内部評価	A	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり	
総合評価	A	A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）	

令和元年度南丹市教育委員会の点検・評価表（平成30年度対象）

平成30年度重点実践項目		10. 市民相互がつながり合い、生涯にわたって豊かに学び合うことができる、学習環境の充実	
点検・評価対象とする事務事業	重要文化財保存管理事業	担当課	社会教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉 における位置付け		大目標	2. 南丹市の教育資源を活かして生涯にわたる学びを支える教育環境づくり
		目標	（4）市民の生涯にわたる学習環境の充実に努めます
事業目的	国の重要文化財である石田家住宅について、保存と公開を目的とした施設管理を行う。		
事業内容	石田家住宅の公開と管理については、地元檜原区に運営を委託しており、4月～11月と翌3月の土日祝において一般公開を行った。また、保存については防災設備の点検を実施し、経年劣化等による不具合箇所の確認を実施する。 ◇年間公開予定日 87日	達成指標	地元区に管理運営を委託し、土日祝に一般公開を行う。
		30年度予算額	979,000円
		達成度	30年度から一般公開開始。公開日87日。（来館者数：781人）
成果	石田家住宅公開に向けて、地元へ委託することにより、見学者の対応、トイレなど施設設備の清掃、周辺の草刈りなど石田家住宅およびその周辺の維持管理についても対応することができ、文化財の良好な保存・活用を達成することができた。また公開についても、予定していた年間の公開日数について、一般公開を行った。	30年度決算額	712,937円
		課題	
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無	有	意見聴取に際しての提示資料等	平成30年度社会教育事業報告 石田家住宅公開パンフレット
意見内容	国の重要文化財である石田家住宅について、地元地域との協働の中で、改修、再公開となった点について大きく評価できる。		
内部評価	A	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）	
総合評価	A		

令和元年度南丹市教育委員会の点検・評価表（平成30年度対象）

平成30年度重点実践項目		10. 市民相互がつながり合い、生涯にわたって豊かに学び合うことができる、学習環境の充実	
点検・評価対象とする事務事業	重伝建地区保存修理補助事業	担当課	社会教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉 における位置付け		大目標	2. 南丹市の教育資源を活かして生涯にわたる学びを支える教育環境づくり
		目標	（4）市民の生涯にわたる学習環境の充実に努めます
事業目的	国の重要な文化財である美山町北重要伝統的建造物群保存地区を保全する事業。地区における建造物及び環境物件の管理、修理、修景または復元について、所有者に対してその経費の一部の補助を行う。補助金を交付することにより、地域の景観並びに環境の保全を図る。		
事業内容	美山町北は国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されており、日本古来の景観が良好な形で残されている。その保全について国や府と協力しながら事業を進めていった。 本年度は、9件の修理を実施。 主屋茅葺屋根修理（3件）、小屋茅葺屋根修理（2）、主屋杉皮葺庇修理（1）、離れ修景（2）、主屋トタン屋根修理（1）		達成指標
			修理・修景事業について景観に配慮した事業を進める。
			30年度予算額
		14,108,000円	
成果	周囲の景観に調和するように工事をを行い、維持・管理が行えた。		達成度
			9件の修理・修景事業を文化庁・京都府と調整し進めることができた。
			30年度決算額
		13,924,657円	
課題	現在、保存地区の中でも空家が顕在化してきており、今後高齢化が進むことは、地区の景観を守る上で大きな課題となってきている。選定当時より屋根材料の高騰や経済状況により、葺替に対する補助金の見直しも必要になってきている。 また、建物を社員寮や一棟貸しのための施設として活用する意見も地元からは出てきており、保存と活用を両立しながら景観を守る修理・修景について、専門家や地区の事情に精通した建築士と協議できる場づくりが必要となっている。		
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無	有	意見聴取に際しての提示資料等	平成30年度社会教育事業報告
意見内容	保存地区は南丹市の宝物であると考え、5・6月は放水銃の点検があり、5,000人程が訪れる観光資源ともなっており、市と地域が互いに共通理解をはかり結びつき、空家の解消に向けて情報公開を行って保存と活用にむけていくことが大切であると考え。		
内部評価	B	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）	
総合評価	A		